

自治会連合会会報

第 3 号



— 新春もちつき大会 —



市民夏祭り



フリーマーケット

広げよう!
コミュニティの輪



防災訓練



町会夏祭り

〈写真提供：豊町東地区会・宮本町町会・一ノ割町会・仲町町会〉

我が街の紹介と活動状況

● 順不同 ●



一ノ割町会の歩み

一ノ割町会長

大熊 文 男

南埼玉郡武里村大字一之割戸数九十戸が、昭和二十九年市制施行により、春日部市大字一ノ割となり、行政の末端機構として約百三十世帯で一ノ割地区ができました。昭和四十年ころより一ノ割も首都圏のベッドタウン化に傾き、人口も増えはじめました。(昭和四十五年八二六世帯)

昭和四十六年に神社の敷地を借用し、積立金と寄付金により、集会所一ノ割会館(建坪五十五坪)を建設しました。

また、将来の人口増に対処していく自治活動のありかたが検討され、地区活動は単に市の伝達機関だけでなく、自主的に、皆で考え行動し、明るい街・住みよい街・楽しい街づくりをめざして歩もう。

そのための組織は、班(十〜十五世帯)↓組(百〜百五十世帯)↓地区(四百〜五百世帯)が望ましい形ではないかとのことで、本田第一・第二・第三・根耕地・新田大沼(当時は新田地区)の五地区に分けることにしました。

しかし、一ノ割は五地区となっても分裂することなく一体となって自治活動をすすめていきたいとの要望から、地区長の互選で町会長を選び一ノ割町会とし、大所帯となっても一自治会として歩むことにしました。

また、活動部門として婦人部・青年部・老人会・子供会の事業部を作り、各部門は独自の活動を行うとともに、町会活動に寄



夏祭りロックコンサート

与してもらおう等の大綱をもとに町会規約が作成され、昭和四十八年一ノ割町会が発足しました。

年次総会は新旧の班長が出席しますが出席率がよく、会場に入りきれず、決算総会(旧班長)予算総会(新班長)の二回に分け開催し、活発な意見交換が行われました。

活動としては、子供を中心とした(当時約七百名)夏祭り、駅周辺の交通安全を図るための地下道の開通、放置自転車追放整備、派出所の招致等が実現されました。盗犯防止の推進、自主防災の組織結成と消火器等の設置、町会独自の避難場所の設置や防災訓練の実施等も行われています。



新しい街づくりをめざして

新川島地区長

唐 紙 昭

私達の街、新川島地区は春日部市の東部に位置し、昭和三十一年代までは三十戸程度で、地域の中を用水路が流れる風情のあ



ふれあい給食会

る静かな農村地帯でした。ところがその後、急速に宅地化が進み、県道沿いの商店街の夜景は不夜城のようにネオンがきらめき、今では三〇〇世帯を越える新興住宅街に大変身を遂げてしまいました。

そこで当地区ではさまざまな問題を抱えるようになり、先輩諸氏のご協力を得て、定例班長会(毎月一回)を実施することにし、随時役員会も併せて開催、懸案事項に即、対応できるように取り組んでまいりました。

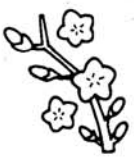
私共の地域には古くから伝わる郷土の習わしがあり、学ぶべきところは継承し、改善すべき所は改め、毎年のように新天地を求めて入居して来る方々が積極的に地域活動に参加して頂けるよう働きかけ、今では様々なイベントを通して大いに親睦を深めております。

今年で二十周年を迎える地区体育祭は、青年会による資源回収で得た貴重な収益金をあて、毎年五月に老若男女が一堂に集い、盛大に開催されています。更に七月には、当地区の伝統的な大杉神社の夏祭りが始まり、大杉太鼓が披露されるなか、それを合図に神輿が万燈に先導されながら宮出し、夏の夜空に提灯で色どる沿道の中を担ぎ手が汗にまみれ威勢よく声を枯らして練り歩く姿は勇壮で、観客と一体となり終日賑わいを見せております。

これらの行事はいまだに一度も途絶えることなく、延々と続いており、これからもよき後継者により引き継がれて行くものと確信しています。

そのほか、秋には自主防災会による防災訓練と、高令者を対象にした「敬老の集い」、年末には神社の大々繩の奉納など、年間を通しての行事が目白押しですが地域住民が丸となってとりくみ、親睦と融和を図りながら心豊かな明るい生活ができるよう一生懸命努力していきたくと思っています。

地区内各位のあたたかいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





快適な生活環境の地に

下谷原地区長
石塚 正明

下谷原地区は、春日部警察署周辺より谷原中学校周辺まで、そして、南北に将来都市幹線道路として位置付けられております市道一十五号線を中心道路として、現在八百余りの世帯が居住する地区でございます。昭和四十二年に埼玉国体会場となった大沼グラウンドが土地区画整理事業によって開発された中において、防災センター等も当地区内にあります。当時までは、農家の世帯四十足らずでしたが、年々世帯数の増加をたどり現在も住宅建設が行なわれ、緑豊かな田園の地域と、住宅専用地域とに変遷しました。当地区の三十％は市街化区域であって大沼一、二、七丁目、豊町三丁目の住居表示で、グリーンコープ自治会、藤の台自治会、ふじの街自治会と元からあります下谷原地区会とで組織形成されております。

大沼グラウンドより南方側は、農業振興地域の谷原新田になり農道整備事業の甲斐あって、田園の中に散歩道と云いますか、散策する人やジョギングの姿が多数見受けられる今日です。

今年度は、コミュニティ推進地区の指定を受けまして、大沼区画整理記念館の集会所を地区自治会管理に委託して頂き、有効利用の為にコミュニティ箱を設置して活用しております。申し込み受付は、日祭日、夜間も受付可能にして、一カ月の申し込みは三十件を超え、延べ使用者数も三百人にのぼりました。

当地区の事業と云いますと、自治会則及び自主防災組織制定二十周年記念賀詞交歓会の開催 ○地区内清掃 ○体育祭 ○子供会、老人会活動の後援



地区内清掃

○地区内防災防災パトロール ○自主防災訓練 ○視察研修 ○もちつき大会等を実施しています。

課題としましては地域に合った組織改革と地域交流の拡大、それに広報活動であって活動情報の伝達を密にして、永住の地と選んで住民となる人達にも「誇れる地域に」をモットーに環境保全を重視しながら今後、コミュニケーションの充実に力を傾注したいと思っております。



牛島四番地区

地区長
村田 徹

牛島地区は、東に新倉松落、西に古利根川、北は県道西金野井・春日部線にかこまれ、南は豊野地区に境を接し、ほぼ中央に県道春日部・松伏線が通り、東武野田線が南側を通っている地区です。ほぼ中央に牛島球場があり、幸松地区公民館、第六保育所、ふじ学園、ふじ授産センター、

牛島小学校、ボランティアセンターなどの公共施設があり、牛島村の守護神としての女体神社があります。

当地区は、一番組、二番組、三番組、四番組と四つの地区にわかれ、世帯数は一五〇〇世帯を超え、一部の地区で増加の傾向が著しいところで、私が地区長としてお世話になって八年、感じたままをのべますのでご指導いただければ幸いです。

一、牛島の四つの地区の境界がはっきりしないことです。戸数が増えるに従って新たな問題が発生しつつあります。

二、地区の役員となつて下さる方がすくないことです。地区の慣習的行事と役員とのからみなどです。自治の精神からいえば、多くの方が役員を経験すべきだと考えます。

三、地区費について、当地区では一か月二百円（自主防災費五〇円を含めて）です。これさえ納入してくれない世帯があり、さらには値下げしろという声さえあります。さらに市からの配布物（広報紙、議会だより、ゴミカレンダーなど）は、いらぬ。したがって地区費は納入しないといった誤った考え方が多くなりつつある現状があります。



牛島女体神社

四、募金は、いうまでもなく募金をしてくれる方の善意によって行われるのが本旨ではないでしょうか。戸数に応じての割当方式では、募金の意味が失われてしまう。また募金の額と地区費のバランスが問題です。かといって一戸ずつ募金を集めるのは、戸数から考えて不可能です。

さまざまな問題をかかえながらそれらを少しずつ新しい時代に即応した方法を生み出していくのも地区住民のパワーであると考えます。みなさんのご指導、ご協力いただければ幸いです。





元町町会

町会長
上野 照信

元町々会の変革について、明治、大正当時は裏町と言っておりましたが、昭和天皇の御大典を記念して現在の元町と呼称を改められました。

高齢者の方は、今でも元町と言うよりも「裏町です。」と言った方がわかりやすい方が多くおられます。

元町は粕壁地区の中心街に位置しており交通、買い物には至極便利で、又、公害のない住宅地であり、地域が僅少で約十分程度で町会を廻ることができま

す。平成九年には、災害に備え自主防災組織を作り町内の皆様から大変喜ばれております。

夏祭り等については町会の方全員で四日間も協力して市民夏祭りに参加しており、祭り当日は皆さんで約一俵の赤飯の炊き出しを行い、町会全戸に配っております。

その他粕壁地区市民体育祭に

おいても町会の皆様が一致協力して楽しい体育祭に参加して、中でも二人三脚は、夫婦で出場して優秀な成績を上げるなど実に良くコミュニケーションが出来、反省会等には大変な賑わいになります。

町会には稲荷神社があり、毎年年初午祭には、有志の方でお米七升ぐらいの手作り甘酒を振る舞いますが、これがなかなか大変です。

毎日、朝晩の二回程攪拌しますが毎年味が違いますので、これもまたおもしろいところがあります。

今後、行政当局等又町内の皆様の暖かいご支援ご協力を戴き、より良い運営をして行きたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。



樋堀地区

地区長

大久保 幸一

春日部駅東口より徒歩約十三分古利根川に架かる埼玉橋を渡った東北に位置する地区、そこが

樋堀地区であります。

隣接地区はマップに示すとおり、区内を南北に一本主要地方道

松伏線がはしり、路線バス(春日部)宝珠花)が運行されています。

世帯数は五〇〇、うち高級マンション三棟があり、

五〇余年前は二〇余りの世帯数だったに比べ飛躍的に発展、増加した地区と言えます。

地区内の三分の二が市街化区域、三分の一が調整区域である。居住者を層別すると、都市型と農村型に分けられ、それぞれが文化と経済を持っている。

又、地区内の目玉として古代より名高い関東の三大師(樋堀・西新井・川崎)のひとつ樋堀厄除け大師があります。

地区運営組織は、地区役員(正副地区長、会計、書記、任期は二年)と組長(十五名、任期は一年)と一般世帯で構成され、地区運営諸行事の基軸は、地区役員と組長により司どっている。



年間諸行事については、

①地区研修旅行↓開催時に募即日帰り、一泊で実施

②幸松地区体育祭↓地の利を生かし一五〇名程度参加

③クリーン春日部クレンジング地区全体に呼びかけ皆んなで参加

④古利根川の清掃↓役員、組長全員参加

⑤樋堀厄除け大師祭り↓先人のあとをしっかりと伝承し、役員、組員を軸に守っている。

御開帳四月二十一日

⑥白山神社祭と初午祭↓年四回境内外を清め国旗を掲揚し先人のあとを継承している。役員、組長全員

⑦初詣での準備↓役員、組長、

有志でボンボリの取り付け、案内掲示板、ポスターでのPRを実施

⑧区内諸団体との連携↓子供育成会、松寿会、婦人会に助成を計り地区住民と街づくりに努めている。

⑨その他↓市行政への協力。諸行事に積極的に参加。以上が主な地区運営の取り組みであります。

「地区長の悩みと課題」

世はカオスとボーダーレスが進む中、「よりよい街にするために、都市型人間と農村型人間の調和を如何にして図るか?そしてそれをどのように解決していくか?」これが地区長である私のミミズの「たわごと」である。



地区研修旅行



梅田今昔ばなし

梅田一区地区長

清水盛也

梅田一区は、梅田二丁目とも梅田東ともいいます。東に古利根川、西は東武伊勢崎線、南は古隅田川、北は国道十六号バイパスに囲まれた地域です。

平成七年以前は、梅田全体で梅田地区として活動して来ましたが人口の増加により地区長会（現在の自治会連合会）に地区の分割を請願し、承諾してもらい旧来の地区を「梅田一区」「梅田二区」「梅田本町地区」に分割されました。現在の梅田一区は私の故郷です。

私が子供の頃の梅田一区（梅田東）は、農家が二十一戸位で米麦や養蚕で生計を立てていました。機械などは無く、牛馬を使って土お起しをしたり馬車やリヤカーで物を運ぶのが精一杯でした。

農繁期になると小学校でも農繁休暇があって全校生徒が休みになってしまいます。それほど農繁期は忙しかったものです。

よく猫の手も借りたいほどと云う言葉がありますが、まさにそのような忙しさでした。

小学唱歌の故郷と云う中に、「山は青きふるさと、水は清きふるさと」とありますが当時の古隅田川の水はきれいで色々な川藻がいっぱい生い繁っていてメダカやコブナが藻の間を泳いでいたり、川辺の竹竿には、とんぼが止まっていたり、水泳ぎも出来て、今日みたいに学校にはプールなどはありませんでした。舟の上では昼休みを利用して主婦たちが洗濯をしたりして川の水を利用していました。当時はそれほど川の水がきれいだったのです。

残念ながら今は人口の増加と心ない人のため、どぶ川化してしまいました。

梅田一区地域の古いよび名は、百間領梅田村と呼ばれていたそうです。

梅田一区には古隅田川北岸の最も高地に当たる場所に、鎮守女体神社があります。

社伝によれば醍醐天皇の延喜元年（九〇一）の創立で当時、梅田に住んでいた織部という人が村内の子供が幼くして亡くなるが多かったことを憂い、子供が健やかに育つようにと天神に祈願し、国産みの神である伊弉冉尊を産土神として祀った



鎮守女体神社

のが当社の起源であると記されています。

神社のお祭りは、元旦祭、祈年祭、百万遍、例祭、おくんち、感謝祭の年六回行われます。

梅田一区も今では年々人口が増えマンション、アパートを合わせたと三六〇世帯位になって来ました。

当地区には、神社の空き地を利用してチビッコ広場と名づけた子供の遊び場があり、ブランコ、スベリ台、鉄棒、砂場等遊具が一通りそろっています。

また、毎月第三日曜を利用して広場の掃除をしています。その他古利根川清掃、クリーディの道路の缶ひろい、夏祭り、体育祭、ラジオ体操等色々やっております。

今後とも宜しくお願い致します。

大枝東自治会

会長

加藤義司



私たちが大枝東自治会は、全員が出身地を異にする者約三八〇世帯で組織した自治会で、自治会活動の目標として

◎自治会活動を通じ、会員相互の親睦と安らぎを覚える住みよい環境の地域でありたい。

などを掲げ、毎年の役員が確認し合って年間の活動をしている。

活動の主なものを持ち上げると

◎役員会は毎月第二日曜日の午前中に集会所で開催している。

◎衛生部が担当して、毎月一回以上分相場所（集会所、チビッコ広場、ふれあい広場）の清掃をしている。

◎毎月会員へのお知らせや報告事項を広報部が「自治会だより」として作成し、回覧による広報をしている。

◎四月五日チビッコ広場でお花見会を開催しました。

◎七月二十五日、二十六日の土・日の二日間、チビッコ広場で

「夏祭り」を開催、大人・子供みこし、模擬店、夏祭り踊り、福引き、子供全員に菓子袋の配布などを行いました。

◎「敬老行事」として六十五才以上の方全員に、本人の希望により「入浴剤」「商品券」などのうち一点（約千円）を贈呈しました。

◎バス二台により秩父、長瀨方面の「日帰りバス旅行」を十月十八日実施しました。

◎会員から提供された品物によるバザーを十一月二十九日集会所で開催、売上金約十万円は全額春日部市社協へ「歳末助け合い募金」として寄付しました。

◎「正しいダイエット」と題する「保健教室」を十一月二十四日集会所で開催しました。

◎「フラワー教室」を十二月六日集会所で開催しました。

◎本年度中の予定行事として、春日部市災害対策室のご指導による「避難訓練」を中心とした防災訓練を二月十四日に計画しています。

◎このほか、大枝地区自治会連合会企画の「ゴルフ会」「歩こう会」「新年会」にも多数の会員が参加しています。





大場東口自治会

会長
安部 信雄

我が町は武里地区に所属しています。大場東口自治会と称し、春日部市最南部で越谷市と隣接し、東武鉄道浅草駅を出て春日部市の玄関口に当たる武里駅の東口で国道四号線に面したところ

にあり世帯数二五〇、人口一千七人で商業（主として飲食店）と共存共栄を計り元気で活動している自治会です。それでは、元氣な活動をご紹介します。まず、春のクリーン大作戦が始まります。春日部市で行われる街路清掃にタイアップして実施されるもので各家庭周辺のアキ缶、紙屑等不衛生を取り除き武里駅東口一帯の美化に三〇〇五〇人が日曜日の早朝出勤し清掃に努めています。

夏になりますと七月第二土曜日と第三日曜日の両日に亘り、東武鉄道(株)のご好意により駅前東口広場を会場に「納涼夏祭り大会」を開催、駅を利用され

ている昇降客も一時見物して一日の勤めの疲労を取り除きながら帰宅しているようです。特に本年は春から商店会に協賛を呼びかけ合同で夏祭りを盛り上げることとなりイベントの中に「カラオケ大会」を加えたこと

により充実した大会となりました。と同時に駅前での開催であるだけに実行委員のみならず町会全員が事故の防止に並々ならぬ注意を払い、毎年無事故で過ごせることは町会全員の一致協力があればこそ成し得ることと誇りにしています。

大会が終了した後、東武鉄道(株) および周辺の関係会社に終了の報告を行い、大会が終了となります。

一息入れる間もなく九月に開かれる「大場地区体育祭」の出場選手集めに子供会会長始め同会のお父さん、お母さんの協力を全面的にお願ひして選手探しに入ります。しかし、当地区も少子化現象が著しく、当該学年児童が居ない競技もあり女子児童が男子競技に出場してもらわないなど、我が町会でも今後ますます少子化が深刻な問題となっています。そんな中出場し、選手はそれぞれに役割を十二分に發揮して大場地区大会始まって以来三年連続優勝という快挙を樹

立し、「みんな協力し合えば何事もできる」という精神を子供から大人に至るまで気持ちの中に植えつけられ町の発展に寄与できるものでした。

そして、秋から翌年の三月の間に町内みんなが戸外で一日を楽しみながら、隣近所の方々と「よもやま話」などで友好を暖めていただきたいと毎年日帰りの予定ですが行事を開催して喜んでもらっています。

ちなみに本年は二月上旬に「ボウリング大会」を新年会と合わせて実施することになって

います。このように当自治会は会長をはじめに各担当役員の並々ならぬご努力で町内会のみならずが安心して明るい街づくりに取り組み「常にアイサツのある」自治会を作っています。



納涼夏祭り大会



野口自治会

会長
山田 善太郎

野口自治会は、八九世帯で、中を六班に分け、順番制で各班が班長を出し、六人の班長の話し合いで、会長、副会長、会計、衛生、体育、監査と役割分担し、任期二年で運営しています。

自治会の主な行事は、六月と十月の「草刈り」と七月の「納涼祭」と三月の「総会」です。

「草刈り」は、二十数年前、道路・水道・下水溝の殆どが私設だった頃、病虫害予防等、よりよい環境を目指してたくさんあった空き地に篠竹、雑草刈りや下水の汚泥の処理を早朝から夕方まで行い、夜、道路にゴザを敷いて「ご苦労さん会」をしていた頃の名残りです。

今は空き地もわずかで汚泥は行政まかせの為、地域内のゴミ拾いと消毒を一〜二時間で終わらせて、路上にゴザを敷き、ビール、ジュースと差し入れのツマミやうどんなどを飲食しながら

ゲームなどをして、一〜二時間の親睦会を行っています。

行事のメインである「納涼祭」は、八月に故郷へ帰る人が多かったため、七月最後の土曜日に決定しているため、延期ができません。道路が私道であった頃を引き継いで、今でも通行禁止をしてゴザを敷いて行っているのが雨が大敵です。雨が予想される場合は、二葉工務店の作業所を借用して開催しています。

焼きそば、かき水、飲み物等を用意して、当日会場づくりを役員と有志で完成させ、カラオケやゲームで盛りあげています。以前は子供も多く、樽興、金魚すくい、ボンボン、花火、餅つき等も盛大にやりましたが年々縮小の傾向にあります。中高生はもとより小学生までもが祭りに参加しなくなりつつある昨今、「納涼祭」も様変わりして行くようです。

広場や集会所の無いのが自治会の悩みです。好意と信頼で成り立っている飲食を伴う自治会の行事では、ちょっとした不注意や悪意で大惨事になりかねません。各班とも、そろそろ班長も一巡して、二回目が廻りはじめました。過去の経験に新しい考えを取り入れて、自治会親睦に努力しようとしています。

自治会連合会は、

地域住民が自主的に組織している住民自治組織（127の地区、自治会、町会）の相互の連絡と地域の健全なる発展を図り、住民の福祉の増進に寄与するとともに、市との緊密な連絡協調を図ることを目的にしている住民自治組織の連合体です。



地区体育祭

活 動 報 告

- ☆ 定例総会 平成10年 5月19日
- ☆ 春のクリーンディ 5月24日
- ☆ 理事会 7月3日
- ☆ 地区別行政懇談会
 - 粕壁地区・内牧地区 7月28日
 - 武里地区・豊春地区 7月29日
 - 幸松地区・豊野地区 7月30日
- ☆ 臨時総会 8月5日
- ☆ 役員研修会 9月28日
日立市塙山学区住みよいまちをつくる会

- ☆ 各地区体育祭の実施
 - 粕壁地区体育祭 10月4日
 - 幸松地区体育祭 10月4日
 - 豊春地区体育祭 10月4日
 - 豊野地区体育祭 10月4日
 - 武里地区体育祭 10月10日
 - 武里団地地区体育祭 10月10日
 - 内牧地区体育祭 10月11日
- ☆ 役員会 12月25日
- ☆ 自治会連合会研修会 平成11年 3月6日
講演会 梶原しげる氏（フリーアナウンサー）

【協力事業】 ☆日赤社員・社協会員の増強への協力 ☆ごみの5分別収集への協力
 ☆赤い羽根・歳末たすけあい運動への協力 ☆世界寺子屋運動への協力
 （書き損じはがき・テレホンカードの回収）

発行日 平成11年3月1日 発行者 春日部市自治会連合会 事務局 春日部市役所 自治振興課内	編集員氏名				
	副会長 中島光男	副会長 齋藤茂	副会長 飯塚一夫	副会長 小菅正造	副会長 本橋正雄

春の気配がそこかしこに感じられる季節となりました。
 新年度を間近にひかえ、より良い街づくりのため今後とも各自治会、地区、町会の活動にご協力をお願いします。

編集後記

